

# バス排ガスでも 一部の大気悪化

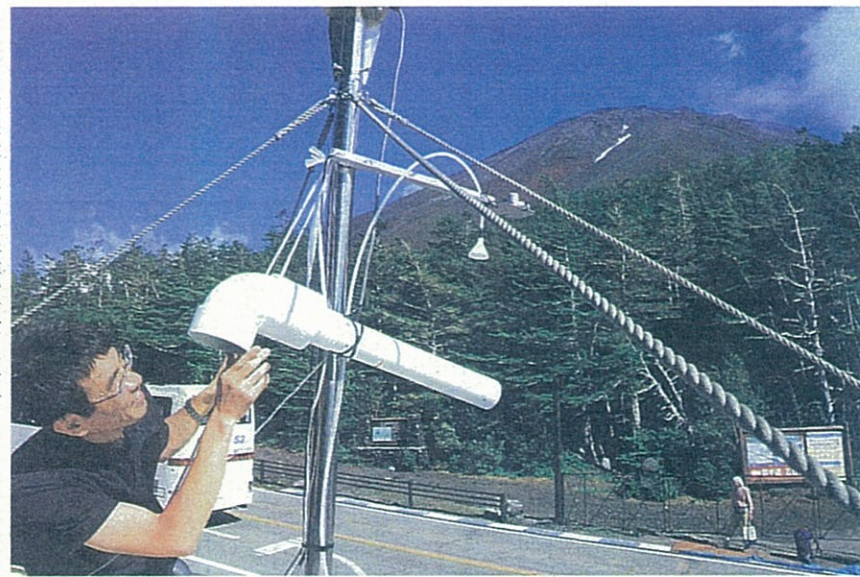
## 富士スバルライン

帝京科学大の和田龍一講師(43)が富士山有料道路(富士スバルライン)で昨夏実施した調査で、マイカー規制期間中の大気の状態が一部で規制期間外より悪化していたことが7日までに分かった。悪化していたのは、マイカー通行期間に車が渋滞しないポイント。大量の排ガスを排出するバスの通行量増加が原因と考えられるという。一昨夏の調査で、マイカーが渋滞する地点では規制期間に大気の状態が改善したとの結果が出ており、和田講師はマイカー規制の必要性を認めた上で「バスの排ガス規制も必要ではないか」と指摘している。

〈植田裕作〉

## マイカー渋滞ない地点、規制期間に調査

## 大学講師 対策強化求める



車両の排ガスから出る大気汚染物質の測定ポイントで、外気を取り込むパイプをチェックする和田龍一講師  
—富士山5合目

同大生命環境学部で環境科学を専門としている和田講師は、車の排ガスに含まれる窒素酸化物の濃度を測定し、マイカー規制の効果を調べている。

和田講師によると、昨夏の調査は7～9月、大学の環境測定車を用いて、スバルライン終点の富士山5合目から約5キロ下った道路脇で濃度を測定した。一般車が入場できないマイカー規制期間中と、期間外に分類し窒素酸化物の平均濃度を比較したところ、規制期間中の方が40～

30%程度、高い値を示したという。一方、2012年夏にスバルライン終点から1・7キロ下った道路脇で同様に測定した際には、規制期間中の窒素酸化物濃度は期間外より62%低かった。一般車の入場を規制したことで、大気の状態が大幅に改善したとみられる。

12年に調査した地点は、規制期間外に5合目駐車場へ向かう一般車で渋滞するポイント。一方、昨夏に調査した地点は規制期間外も渋滞しないという。和田講師は「渋滞が起きにくい昨夏の調査地点では、大型車両の増加に伴う排ガスの増加が、マイカー規制

**ズーム** 富士山有料道路のマイカー規制 渋滞緩和や環境保全を目的に一般車両の通行を一定期間禁止する措置。通行車両が増え、排ガスなどによる環境への悪影響が指摘され始めた1994年に導入された。国連教育科学文化機関(ユネスコ)世界遺産委員会が富士山の環境保全を求めていることなどを考慮し、今夏は過去最長となる7月10日～8月31日の53日間実施している。

による排ガスの抑制効果を上回った可能性がある」と推測している。

和田講師は昨夏のデータを検証するため、今夏は7月中旬から同じポイントで再度、大気汚染物質を測定している。バスなどが通過した直後の窒素酸化物濃度の変化も調べ、影響をより正確に把握する計画も立てている。

和田講師は「12年の調査結果からマイカー規制に効果があることは実証できている。大型車両の排ガス規制も同時に実施することで、より環境保全につながるのではないかと話している。」

2014年(平成26年) 8月8日 金曜日

山梨日日新聞